Book Review

マイクロエンドをはじめよう 超！入門テキスト

北村知昭　編著

A4 判変，72 頁
定価 4,200 円
（本体 4,000 円+税 5%）
医歯薬出版刊

Reviewer
須田英明　Hideaki Suda
（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯髄生物学分野）

日常の歯内療法臨床では，いわゆる難治症例に遭遇することが少なくない．それらのトラブルシューターとして歯科用顕微鏡（以下，「マイクロスコープ」）が果たす役割は実に大きい．マイクロスコープが日常使用されていなかった時代において，いったいわれわれは難治症例に的確に対応できていたのかと考えると，内心忸怩たる思いである．最近 20 年間におけるマイクロスコープの世界的な普及には目覚ましいものがある．また，難治症例に限らず，マイクロスコープの利用が歯内療法の質の向上に大きく貢献していることに疑いの余地はなく，昨今の歯内療法の国内・国際学会では必ずといってよいほどマイクロエンドドンティクスが主たる話題の一つとなっている．本年 5 月に東京国際フォーラムにおいて開催された第 9 回世界歯内療法会議（日本歯内療法学会主催）においても，マイクロスコープ関連の演題が少なくなかった．しかしながら，わが国におけるマイクロスコープの普及率は依然として低く，2012 年の時点で 5%以下である．

本年 4 月，北村知昭教授（九州歯科大学）を編者として刊行された『マイクロエンドをはじめよう　超！入門テキスト』は，上記の状況を勘案したとき，真にタイムリーな好著である．本書は序文に始まり，第 1 章「マイクロエンド早期上達のためのポイント」，第 2 章「実践！マイクロエンド」，そして第 3 章「ケース・プレゼンテーション」の各章から構成されている．いずれの章も，カラー写真がふんだんに盛り込まれているので，読者にとって非常に読みやすい本となっている．

本書の読み方であるが，序文の通読後，まず第 3 章「ケース・プレゼンテーション」から読み始めてはいかがであろうか．具体例から入ると，マイクロスコープがあると何が違うのか，何が見え，何ができるのかを理解しやすい．とりわけ第 3 章のケース 1 で，マイクロスコープとコーンビーム CT の併用が勧められていることが目を引く．これは，マイクロスコープが物体の表面構造を，コーンビーム CT が物体の三次元的な内部構造を把握するのに適しているからである．この両者こそ，近年の歯内療法臨床に大きな変革をもたらした機器・技術にほかならない．

第 3 章の後は，第 2 章「実践！マイクロエンド」を読まれるとよい．同章では，まずマイクロスコープの使い方が歯種ごとに図解され，次いで根充材の除去，根管洗浄，破折ファイルの除去，最後にマイクロサージェリーにおけるマイクロスコープの威力がわかりやすく図説されている．以上に目を通したあと，最後に第 1 章「マイクロエンド早期上達のためのポイント」を読めば，マイクロエンドの論理的側面を学習でき，間違いなく明日からの歯内療法臨床のスキルアップを図れるであろう．

TV 放送で「さかのぼり日本史」という番組があったが，本書に関しても「逆読み」をお勧めしたい．なお，本書の題名には「超！入門」とあるが，ある程度マイクロスコープを使い馴れた歯科医師にも，この好著は一読に値する．